

新潟・寺前遺跡てらまえ



(出雲崎)

所在地 新潟県三島郡出雲崎町大字上中篠
調査期間 一九八九年(平1)五月~九月
発掘機関 新潟県教育委員会
調査担当者 赤羽正春
遺跡の種類 集落跡
遺跡の年代 平安時代・中世
遺跡及び木簡出土遺構の概要

寺前遺跡は出雲崎の海岸から約1km内陸にあり、標高115m、比高差100mの小高い丘を背に、島崎川に面して南側に開いた舌状の緩斜面上に位置している。調査は国道一一六号線バイパス工事に伴うもので、発掘面積約60000m²の中

1 所在地 新潟県三島郡出雲崎町大字上中篠
2 調査期間 一九八九年(平1)五月~九月
3 発掘機関 新潟県教育委員会
4 調査担当者 赤羽正春
5 遺跡の種類 集落跡
6 遺跡の年代 平安時代・中世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

木簡が出土したのは地表から約80cm掘り下げた鎌倉時代の木組み水路の杭の根元である。この水路は小高い丘のすぐ下に掘られた一辺1・5mの縦板組み井戸から流れてくる水を受けるために、幅80cm、長さ5mにわたって樋状に設けられたものである。水路の側板をとめる杭で支えられている。底に設置された板の間が数箇所区切られており、それぞれに割れたカワラケが一箇所に5~6枚ずつ出土している。

この水路と平行して三間×六間の総柱の掘立柱建物が存在する。

この建物の柱穴はすべて礎板を入れたものである。この他に10棟近い掘立柱建物が検出されている。この遺跡からは、鋳型・溶壁・鉱滓・トリベなどが出土し、鉄製品を製作していたことが知られる。また漆器やその未完成品、40点の下駄、50点の斎串、檜扇、櫛などの大量の木製品が出土している。焼物では珠洲焼が多く、中国陶磁器のほか、東海産山茶碗、畿内産瓦器碗などが出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「蘇民将来ノ子孫也」

蘇民将来ノ子孫也」

172×25×2 011

鎌倉時代の木組み水路の最後尾をとめた一本の杭でとめられた枕木の下、杭と杭の間から、三点出土した。他の二点も同文である。本年度は平安時代、中世の調査を行った。

(赤羽正春)